

土壇場に近づけば近づくほど 適当ではいけません

3年生が卒業して、早くも1週間が経ちました。1・2年生のみなさんも、修了式まで残り2週間となりました。

『土壇場に近づけば近づくほど、「これでいいか」というような適当さではいけない。そんなに甘くない。』と棋士の羽生善治さんは言っています。どちらに転ぶか分からない勝負の世界で生きている人は、このように自分を律する言葉をもっており、こんな言葉を日々自分に言い聞かせながら、練習したり、作戦を練ったり、復習をしたりしているのです。テスト前には、授業でも小テストが行われたと思いますが、適当に取り組んだ人はいませんか。1回1回に全力で取り組んでいる人もいます。小テストの2問をおろそかにしたとして、2問×小テストの回数×9教科と適当に取り組んでいると、適当に扱った問題が増えていきます。当然、毎日の家庭学習も同じです。ある程度の学習量は必要ですが、ページ数を稼ぐことだけが目的になってはいけません。ノートは力をつけるための手段です。自分のノートは力をつけるためのものになっているか日々振り返っていきましょう。

残された時間は平等です。時間を大事に、1問を大切にこの時期を過ごしましょう。自分への厳しさが、不安やプレッシャーを乗り越える力となるのです。

☆ テストが終わったから適当にやっとう → 1日1日大事にがんばろう

☆ これくらいでいいや → もう1回挑戦しよう

☆ 1問ぐらい捨てよう → あと1問絶対身に付けよう

☆ あと5分だけんやめよう → 残り5分を大事にしよう

☆ 2ページ学習したからいいや → もう1回テストしてみよう

☆ 明日すればいいや → 何が何でも今日やってやる

土壇場では、厳しい方を選択すべし